



野党統一候補の擁立を心から歓迎し、その勝利のために奮闘しましょう！

4月7日の第7回県労連幹事会で、夏に予定される参議院選挙における県労連の方針が確認されました。長野選挙区での野党統一候補が決まり、現段階での確認として声明を出します

2016年4月7日
長野県労働組合連合会幹事会声明

安倍政権が、多くの国民の反対を押し切って強行採決させた「安保法制」（戦争法）が、3月29日に施行されました。この施行により、憲法九条の下で、1954年の自衛隊創設以来、一人の戦死者も出さず、一人の外国人も殺さなかった戦後日本の在り方が根本から変えられようとしています。日米同盟を憲法の上に置き、米国の戦争に日本が参戦する仕組みがいくつも盛り込まれている、まさに「戦争法」そのものです。検討されている南スーダンPKOでは、駆け付け警護などの任務追加により、自衛隊員が「殺し、殺される」戦闘にまきこまれる現実的な危険性が目の前に迫っています。

県労連として、安倍政権のすすめる「戦争できる国づくり」の危険性を早くから指摘し、安保法制の成立阻止に全力をあげてきました。今2016春闘では、大幅賃上げを求めるたたかいとともに、安保法制の廃止を求めるたたかいを重要な柱として、2000万署名の推進を軸とする世論構築をはかってきました。また、安保法制廃止を掲げる広範な市民団体との共同の広がりも追求してきたところです。あらためてこの施行に対し、満身の怒りをもって抗議するとともに、安保法制の実際の発動を許さず、廃止に追い込むたたかいに、引き続き全力をあげようではありませんか。

安保法制成立以降も、安保法制の廃止を求める市民の声は広がりを続けています。中央では「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が発展的に発足しました。安保法制廃止とそのための野党共闘の実現を図るために、より広い共同を求めるその存在は、全国各地で世論を喚起し野党の背中を押しています。そのうねりが、2月19日の5野党党首の合意を成立させ、安保法制廃止法案を共同で国会に提出する原動力となりました。そして、長野県内においても、3月20日に3野党と杉尾ひでやさんとで参院選での野党統一候補としての共闘協定が成立しました。私たちは、野党と市民との共同の前進を心から歓迎するものです。

この参議院選挙を、この国の民主主義を鍛え、主権者の声が政治と社会を動かす新しい時代の扉を開ききっかけにしようではありませんか。安保法制を廃止できる政治をつくり出すために、立憲主義・民主主義に基づいた良識ある投票行動を、構成員を含むすべての労働者に呼びかけます。野党統一候補の勝利のために奮闘しようではありませんか。

基本的な考え方、具体的方針は2ページに掲載

最賃いますぐ1000円以上

★なくせブラック企業★

NO LOW PAY★YES UNION

***** 全国労働組合総連合 4.15 最賃上げグローバルアクション *****

4・15最賃引上げグローバルアクション

4月15日に国際連帯行動宣伝を行います。

長野駅前 18：00～18：30 参加をお願いします。

松本駅前 12：00～

第87回メーデーに集まろう

日本で初めての第1回メーデーは1920年に開催されました。このときのスローガンは「8時間労働制の実施」「治安警察法第17条の撤廃」「失業防止」「最低賃金法の制定」「シベリア派遣軍の撤退」などでした。

戦争法廃止、立憲政治を取り戻そう、に匹敵するのがシベリア撤兵要求、今の要求と一致する部分があります。（学習の友4月号より）

今年のメーデーは日曜日です。家族ぐるみで大勢参加し、要求実現をめざしましょう

4月のイレブンアクション

長野駅前：10人で210枚配布（昼宣伝）

松本駅前：11人で250枚配布（夕宣伝）でした。ご苦労様

第87回

メーデー

2016年
5月1日
9時開会、9時半開始
会場：長野市
ひまわり公園

働くものの団結で生活と権利を守り、
平和と民主主義 中立の日本をめざそう

年金上げろな

戦争法廃止、立憲政治を取り戻そう、に匹敵するのがシベリア撤兵要求、今の要求と一致する部分があります。（学習の友4月号より）

今年のメーデーは日曜日です。家族ぐるみで大勢参加し、要求実現をめざしましょう

長野県メーデー中央集会

参院選挙の取り組みにおける基本的な考え方

2016年4月7日長野県労働組合連合会第7回幹事会

考え方の整理

- 1 2月19日、野党5党（民主・共産・維新・社民・生活）党首会談で、安保法制廃止、安倍政権打倒、国政選挙における協力など、以下の四項目の“合意”が実現した。

確認事項

- ① 安保法制の廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を共通の目標とする
- ② 安倍政権の打倒を目指す
- ③ 国政選挙で現与党およびその補完勢力を少数に追い込む
- ④ 国会における対応や国政選挙などあらゆる場面でできる限りの協力を行う

- 2 3月20日、長野県選挙区において、県内野党3党（民主・共産・社民）と杉尾ひでや氏（民主党公認、元TBSニュースキャスター）が、参院選での野党統一候補としての「共闘協定」に調印した。また、この調印式は、「共同フリーテーブル」として、3党に加え、安保法制の廃止を求める市民団体、組織、個人など270人が参加した。

協定事項

- ① 安保法制の廃止、集団的自衛権の行使容認の閣議決定撤回、立憲主義の回復をめざす
- ② 安倍政権の打倒をめざす
- ③ 憲法改悪を阻止する
- ④ 格差社会の是正を図る

- 3 昨年9月19日の安保法制成立以降も、安保法制の廃止を求める市民の声は広がりを続けている。12月20日に、この間の運動の中心を担った「総がかり行動実行委員会」を含んで、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が中央では発展的に発足した。安保法制廃止とそのための野党共闘の実現を図るために、より広い共同を求めるその存在は世論を喚起し野党の背中を押している。

- 4 県労連としても、安倍政権のすすめる「戦争できる国づくり」の危険性を早くから指摘し、特定秘密保護法や集団的自衛権の閣議決定に反対し、昨年は安保法制の成立阻止に全力をあげてきた。2016年1月16日の県労連評議員会において、今2016春闘では、大幅賃上げによる労働者・国民の暮らしと生活の向上を求めるたたかいと安保法制の廃止を求めるたたかいを二つの重要な柱として提起をし、その取り組みに全力をあげることを全員一致で確認した。とりわけ後段においては、2000万署名の推進を軸とする世論構築に加え、安保法制廃止を掲げる広範な市民団体との共同の広がりも追求してきた。

- 5 引き続き2000万署名の推進に全力をあげる自前の取り組みとともに、この間の流れを発展させ、共同の広がりを強める上で、安保法制廃止・立憲主義回復を最優先に掲げる政治勢力が参院選において伸長することも、県労連としての要求実現にとっては重要な方策であることは疑いないところである。したがって、県労連としても参院選の取り組みを重視することとし、以下の具体的方針を提起する。

具体的方針

- (1) 県労連として安保法制廃止・立憲主義回復の二点を、参議院選挙の最大の争点に押し上げる責務があり、したがって、それを構成員に明らかにすることを選挙の取り組みの中心とする。
- (2) 同時に、アベノミクスの破綻が鮮明になるもとで、格差と貧困の加速度的な拡大、暮らしと地域社会の疲弊問題で、「地域活性化運動」の取り組みをさらに強めるとともに、働くものにとって憲法と暮らしをまもる選挙であることも示していく。
- (3) 上記(1)(2)の取り組みを推進する上で、各政党の政策や我々の要求への態度をより明らかにするために、全労連・県労連・各単産作成の資料等を確実に構成員に配付し、職場・地域での旺盛な論議を促す。
- (4) 県内で確立した野党統一候補については、その立候補を歓迎し、その勝利のために奮闘する立場を構成員に明らかにする。
- (5) ただし、県内の野党統一候補が特定の政党の公認候補であるので、県労連として推薦や支持等の機関決定は行わない。
- (6) なお、上記(5)の方針は、野党統一候補との接触を遠ざけるためのものではない。むしろ、上記(4)の立場から、労働者としての要求や要望を、懇談等の機会を設定して伝えていく。また、機関会議や各種つどい等の来賓あいさつは、単産や地区労連の判断で積極的に要請をする。
- (7) 野党統一候補としての宣伝物ができれば、単産や地区労連に下ろしていく。その配布にあたっては、構成組織の判断により違いがあってもかまわないものとする。

方針を進める上で

- (1) 労働組合の、とりわけ国政選挙の取り組みの原則は、政党からの独立と組合員の思想信条・政治活動の自由を守ることであり、それは揺るぎないものである。
- (2) しかし、政党からの独立は自明の理であるが、政治的中立を狭義に限定して解釈することで、政治的活動を何もしないことが正しい取り組みであるとの認識には立たない。
- (3) 野党共同統一候補の誕生を歓迎する立場で、参院選挙においても要求の一致点にもとづいての行動を、県労連としても単産・地区労連としても追求していく。
- (4) ただし、いずれにおいても、「押しつけ」にならないよう、丁寧な議論のもとで意思統一を計ることはいうまでもない。
- (5) 一方で、この参議院選挙は、主権者としての態度・立場が求められている選挙でもある。無関心のもとで組合方針に従うことを求めるのではなく、成熟した市民として、立憲主義・民主主義に基づいた良識ある投票行動ができるかどうかを掘り起こすことが何よりも重要である。
- (6) 同時に、この参議院選挙が、この国の民主主義を鍛え、主権者の声が政治と社会を動かす新しい時代の扉を切り開くきっかけになり得ることを、構成員を含むすべての労働者が受け止められるような世論喚起のために、すべての構成組織が全力で奮闘することを切望する。



4月から県労連に専従として着任しました

野口綾子です。出身は国共闘（全労働長野支部）です。よろしくお願ひします。労働運動の経験は少なく、これから様々な経験を積んでいきます。

ご迷惑かける時もあるかと思いますが宜しくお願いします。